2017 年 3 月期第 1 四半期決算
IR 説明会ネットカンファレンス（2016/08/02 開催）質疑応答内容

Q: 第1四半期の売上総利益実績をどう評価するか。
A: セグメントによって凸凹があるが、会社全体を通して見ると、売上総利益の1Q実績は、ほぼ会社計画通りとみている。

Q: 第1四半期に認識した一過性損益について、リテール事業本部で認識した不動産売却益も含めて、整理して教えてほしい。
A: まず、リテール事業本部の販売用不動産の売却については、当社子会社がショッピングセンターや商業施設の運営を行い、バリューアップしてキャピタルゲインを得たもの。施設運営の受託等を本業としているため、売却益を一過性要因と認識していない。当社が第1四半期で認識した一過性損益は、その他の収益・費用で計上している船舶の減損損失▲3億円と関係会社整理損の▲2億円の合計▲5億円等。

Q: 資産入替に伴うコスト▲50億円は第1半期使っていないか。
A: 第1四半期実績で、資産入替コストは認識していない。

Q: 船舶の減損について教えてほしい。減損額そのものは小さいが、現在このオペレーションがどうなっているか。今後も一過性の損失が出るリスクを認識しておく必要があるか。
A: 第1四半期で減損対象となったスモールハンディの小型船のみ市況価格が下げ止まっていないが、その他の当社保有船舶については、傭船市況は上昇傾向にあり、現状、減損懸念はないと考えている。

Q: エネルギー本部の第1四半期実績が売上総利益のラインから赤字になっているが、一過性の影響によるものか。また、通期純利益見通しは▲20億円と、期初見通し通りという理解でよいか。
A: エネルギー本部において、第1四半期に一過性損失があったわけではない。4月以降ヘッジを積み増し、6月末時点で年間想定取引数量の80%弱をヘッジ済みであることから、通期見通しは概ね達成可能と見込んでいる。

Q: 石炭・金属本部は第1四半期実績が赤字だが、何か特殊要因があるのか。下期での回復について、どうみているのか説明してほしい。
A: 金属資源関連の市況は、現状では期初計画策定時の価格より高い水準で推移している。当社持分法適用会社のメタルワンも、下期にかけて2020年の東京オリンピックの施設建設に向けた資材の荷動きの活発化等を見込んでいる。従い、現時点で期初計画値を引き下げる必要はないと考えている。

Q: 化学本部の第1四半期実績は前年同期比減益だが、足元で何か動きが出ているのか。減益となった背景と、下期以降どの辺りが挽回してくると見ているのかを教えてほしい。

A: ナフサ、メタノールの価格は若干伸び悩むが、タイの自動車生産やインドネシアの二輪販売等はかなり堅調に推移しており、それらがカバーすることで、通期見通しは概ね達成できるとみている。

Q: CFの見通しについて教えてほしい。第1四半期の投融資実績が160億円で、通期では期初通り1,250億円を計画しているとのことだが、投融資について、この数ヵ月で変化があればアップデートしてほしい。

A: 今期のFCF見通しは期初計画通り▲350億円程度と見ている。

、

以上